

TARO's PROJECT III

TARO'S PROJECTも、皆様のご協力により
おかげさまで三回目になりました。



第一回は、世の中の常識を覆すためと自分への挑戦とを合わせて北米大陸を回ってきました。第二回は、「MUSUBU」と題して障がいのある人とない人とを区別なく結ぶために、韓国・日本を回ってきました。20年前に泉区誕生と時を同じくして「障がい者たろ」としての人生を歩き始めて、急激に変わっていく世の中を二つの感覚<歩いている頃の感覚>と<車いすを使うようになってからの感覚>で見してきました。全く違った立場を20年ずつ経験できている事は自分にとってかけがえのない財産となっています。三回目は、いよいよ違った立場からの発信で”時代を変える”ために困っている人の声に”耳を澄ませて” ”心を寄せて” その人の立場から声を上げていきます。

障がい：20年前リハビリを終えて車いす生活になった時は、電車に乗れないバスに乗れない飛行機にも乗れない、一度家を出るとトイレもないという、ナイナイづくしでした。世の中に出るスタートラインが遠く感じていました。しかし、現在は環境もある程度整いつつあり、今まで受け身だった障がいのある人達が能動的に社会に参加し、自ら生み出す時が来たと感じています。学齢期を終えた障がい者が何らかの形で職に就き、働く喜びと社会に貢献することができるシステムを作りたいと思っています。

教育：学校教育が全ての様に感じてしまいましたが、自分を振り返ってみると、その当時出来たばかりの中進予備校で得た知識とは別に、両親や祖父母、近所のおじさんおばさんに教わった事、日本や世界各地の旅先で会った人達から教わったことが深く心に残っています。学校の先生だけでなくいろいろな人が学校を舞台に地域の子供として見守り育てることができればと思います。次世代を担う子ども達に、地域が持っているものを直接伝えていけるシステムを作りたいと思っています。

地域：子供の頃、僕は団地に住んでいました。首から提げている家のカギはそんなに冷たく感じませんでした。家に帰ってきてドアを開けても誰もいない静かな部屋に「ただいまー」と言って鞆を放り投げて遊びに行く毎日。父母は仕事をしていて家にいなくても、僕には近所のおばちゃんがありました。時にはうるさく思っている、なんとなく見てくれている安心感がありました。核家族化がすすんだ小さな単位では解決できなくても、地域で解決できることは沢山あります。また、地域での活動だから楽しみが大きくなることもあります。”遠くの親戚より近くの他人”のことわざにあるように、大災害が予測されている現代においては特に早急に地域の結びつきを促進する必要があると考えます。地域にたいして行政主導ではなく、地域からあがってきた要望に対して積極的にタイムリーに後押しができるシステムを作りたいと思っています。

服部 たろ (HATTORI TARO) プロフィール

1963年 神奈川県鎌倉市に生まれる。幼稚園の時に横浜市に転居

1979年 鎌倉学園高校に入学

1986年 7月北米大陸一周ツーリングにメカニックとして参加

同8月、カナダ・ノバスコシア州で交通事故に遭う

2000年 北米大陸一周ツーリングを3輪バイク(トライク)で

再チャレンジ。これ以降、執筆活動、各地で講演会、

ラジオ、テレビ、イベントなどに多数出演

現在も精力的に活動を行っている

2001年 横浜市社会福祉功労者市長表彰 特別功労 受賞

2002年 NPO法人 ANIMI 設立 理事長に就任

3輪バイクでワールドカップの会場、

日韓併せて20カ所をバリアフリーチェックしながら、

各都市で講演活動をする

九州保健福祉大学 臨床福祉学科入学

運転免許における障がい者の欠格条項、撤廃にともなって

4級小型船舶免許取得

みなとみらいに情報コミュニティサロンanimiオープン

障がい者の社会参加を精力的にすすめている

2004年 運転免許における障がい者の欠格条項撤廃後、
自動二輪小型限定免許取得

(社福)横浜市社会福祉協議会 理事

” 福祉ボランティア・市民活動部会部会長

” 福祉教育ネットワーク委員会 委員

(社福)横浜市リハビリテーション事業団

評議委員

横浜市障害者施策推進協議会 委員

NPO法人アニミ 理事長

NPO法人ユニバーサルイベント協会 理事

(社福)たすけあいゆい

横浜YMCA 非常勤講師

他、多数